

○活動記録

※1. 空欄は、○会議記録を参照。
※2. 論文番号は、第6章を参照。

| 実施年月日・場所 | 内 容 | 参加・実施者 |
|---------------------------------|---|-----------------------------|
| 平成3年4月27日 (於： 川村学園女子大学) | 視聴覚情報処理研究会（第21回） 発表：「 α モデルと β モデル」 (川村学園女子大学：岡本栄一) | 藤田恵璽 伊藤秀子 三尾忠男 他3名 |
| 平成3年5月25日 (於： 放送教育開発センター) | 視聴覚情報処理研究会（第22回） 発表：「刺激提示と反応の時間」 (放送教育開発センター：藤田恵璽) | 藤田、伊藤 三尾 他4名 |
| 平成3年6月27日 (於： 放送教育開発センター) | 拡大研究会（第5章参照） ・講演：ロンドン大学視聴覚センター所長 D. Clark 博士 演題「The Design and Delivery of Inetractive Instruction.」 ・当プロジェクト研究の紹介 | 藤田、伊藤 三尾 センター教官 数名 |
| 平成3年6月29日 (於： 東京都老人総合研究所) | 視聴覚情報処理研究会（第23回） 発表：「かな、漢字単語の認知について」 (老人総合研究所言語・認知部門：佐久間尚子) 「単語発話のメカニズムとその異常」 (同上：正木信夫) | 藤田、伊藤 他5名 |
| 平成3年7月13日 (於：大阪大学) | 日本教育工学会研究会「メディア教育」研究会に参加・研究発表。 (論文3) | 伊藤 |
| 平成3年7月20日 (於： 放送教育開発センター) | 視聴覚情報処理研究会（第24回） 発表：「ビデオ学習における教材構成と視聴行動の関連」 (放送教育開発センター：伊藤秀子) | 藤田、伊藤 三尾 他2名 |
| 平成3年8月26日 (於： 放送教育開発センター) | プロジェクト研究会（第1回全体会議） 主題：「研究の進め方」など | *1 |
| 平成3年9月17日 (於： 放送教育開発センター) | K.S. Yuen 博士（香港公開進修學員教育工学研究所所長）来訪。 本センター施設見学と、当プロジェクト研究に関する意見交換。 | 藤田、伊藤 |
| 平成3年9月21～23日 (於：上越教育大学) | 日本教育心理学会第33回総会に参加・研究発表。（論文4、5） | 藤田、伊藤 三尾 |
| 平成3年9月28日 (於： 川村学園女子大学) | 視聴覚情報処理研究会（第25回） 発表：「主観的輪郭線の成立と視覚系の統合機能」 (川村学園女子大学：鶴沼秀行) | 藤田、伊藤 三尾 他3名 |
| 平成3年11月2～4日 (於：大阪大学) | 教育工学関連学協会連合第3回全国大会に参加・研究発表。 (論文6) | 三尾 |
| 平成3年11月16日 (於： 川村学園女子大学) | 視聴覚情報処理研究会（第26回） 発表：「認知心理学の歴史」 (川村学園女子大学：岡本栄一) | 藤田、三尾 他3名 |
| 平成4年2月22日 (於： 放送教育開発センター) | 視聴覚情報処理研究会（第27回） 発表：「『読み』と『モニタリング』」 (千葉大学：中澤 潤) | 三尾 他4名 |
| 平成4年2月27日 (於： 放送教育開発センター) | プロジェクト研究会（第2回全体会議） 主題：「映像教材の分析手法の検討」など | *1 |
| 平成4年3月14日 (於：東京工業大学) | 日本教育工学会「教育方法」研究会に参加・研究発表。 (論文8) | 三尾 |
| 平成4年3月21日 (於： 放送教育開発センター) | 視聴覚情報処理研究会（第28回） 発表：「映像の構成要素の分析について」 (放送教育開発センター：三尾忠男) | 藤田、三尾 他3名 |
| 平成4年4月18日 (於： 川村学園女子大学) | 視聴覚情報処理研究会（第29回） 発表：「学習と認知との間隙」 (川村学園女子大学：岡本栄一) | 藤田、三尾 他4名 |
| 平成4年5月29日 (於： 放送教育開発センター) | プロジェクト研究会（第3回全体会議） 主題：「プロジェクト研究のあり方について」 | *1 |

第5章 研究活動経過

| 実施年月日・場所 | 内 容 | 参加・実施者 |
|----------------------------------|---|--------------|
| 平成4年5月30日 (於： 放送教育開発センター) | 視聴覚情報処理研究会（第30回） 発表：「反復作業における手先動作の熟達過程」 (電子総合技術研究所：佐々木久子) | 藤田、三尾 他2名 |
| 平成4年7月22日 (於： ブリュッセル、ベルギー) | 第25回国際心理学会議に参加・発表。 (論文11) | 伊藤 |
| 平成4年9月21日 (於： 放送教育開発センター) | D.I. Fourie 氏(南アフリカ共和国教育局カリキュラム教材部長)、J. H. Blignaut 氏(同教育文化行政局教育工学部長)が来訪。自国に適切な遠隔教育のモデルを構想するために諸外国の遠隔教育の実態調査の一環として来日。センター施設見学と、当プロジェクト研究に関する意見交換。 | 藤田、伊藤 三尾 |
| 平成4年9月24日 (於： 放送教育開発センター) | 電子情報通信学会「遠隔教育」研究会に参加・研究発表。 (論文12) | 三尾 |
| 平成4年9月28日 (於： 放送教育開発センター) | プロジェクト研究会（部会） 主題：「平成4年度研究活動報告」など | * 1 |
| 平成4年10月2日 (於：信州大学) | 日本教育心理学会第34回総会に参加・研究発表。 (論文15) | 伊藤 |
| 平成4年10月10～11日 (於：茨城大学) | 日本教育工学会第8回全国大会に参加・研究発表。 (論文13) | 伊藤、三尾 |
| 平成5年1月21日 (於： 放送教育開発センター) | プロジェクト研究会（第4回全体会議） 主題：「研究中間報告」など | * 1 |
| 平成5年1月23日 (於：早稲田大学) | 日本教育工学会「教育評価・教育測定」研究会に参加・研究発表。 (論文14) | 三尾 |
| 平成5年3月24日 (於： 放送教育開発センター) | プロジェクト研究会（第5回全体会議） 主題：「平成4年度研究活動報告」など | * 1 |

(作成：三尾忠男)

○会議記録

| 開催年月日・場所 | 主題・報告の内容 | 出席者 |
|--|--|---|
| 平成3年8月26日 於： 放送教育開発センター 研究図書資料棟2F 小会議室 | プロジェクト研究会（第1回全体会議） 主題：「研究目標と計画について」 内容：本研究プロジェクトの研究目標について、それぞれの専門分野から具体的な目的を示し検討した。また、研究の進め方について議論が行なわれた。 | 藤田恵璽 福田 滋 小町真之 坂元 多 伊藤秀子 三尾忠男 浅田 匡 飯森彬彦 菅井勝雄 辰巳 格 野嶋栄一郎 星野昭彦 村川雅弘 |
| 平成4年2月27日 於： 放送教育開発センター 研究図書資料棟2F 小会議室 | プロジェクト研究会（第2回全体会議） 主題：「番組分析の方法論について」 内容：新たに開発している下記の番組分析手法について、方法論を検討した。 (1)構成要素の抽出と比較 (2)タイムサンプリング法を加味した分析 ・ショット時間長との比較 ・サマリー画像の抽出 (3)運動量の計測 | 藤田恵璽 福田 滋 小町真之 坂元 多 三尾忠男 浅田 匡 辰巳 格 星野昭彦 |
| 平成4年5月29日 於： 放送教育開発センター 研究図書資料棟2F 小会議室 | プロジェクト研究会（第3回全体会議） 主題：「プロジェクト研究のあり方について」 内容：(1)当センターの大学共同利用機関としての活動と本研究プロジェクトのあり方について議論した。 (2)下記報告以外に、各人の今年度の研究経過の報告があった。 研究報告： 「映像多重提示装置の仕様」（三尾） 「大学教授法の改善について」（藤田） | 藤田恵璽 福田 滋 小町真之 三尾忠男 飯森彬彦 菅井勝雄 辰巳 格 星野昭彦 |
| 平成4年9月28日 於： 放送教育開発センター 研究図書資料棟5F 番組分析室 | プロジェクト研究会（部会） 主題：「大学教育における映像の活用について」 内容：大学学部教育において映像資料を効果的に利用している事例をもとに、大学教育における映像の活用について問題点などを検討した。 | 藤田恵璽 小町真之 伊藤秀子 三尾忠男 村川雅弘 |
| 平成5年1月21日 於： 放送教育開発センター 研究図書資料棟2F 小会議室 | プロジェクト研究会（第4回全体会議） 主題：「研究経過の中間報告など」 内容：(1)「映像多重提示装置」の仕様と開発状況について報告した。 (2)下記報告以外に、各人の今年度の研究経過の報告があった。 研究報告： 「映像教材の画像サンプル抽出法の検討」（藤田、三尾） 「在外研究報告」（伊藤） | 藤田恵璽 小町真之 坂元 多 伊藤秀子 三尾忠男 浅田 匡 飯森彬彦 辰巳 格 星野昭彦 村川雅弘 |
| 平成5年3月24日 於： 放送教育開発センター 研究図書資料棟2F 小会議室 | プロジェクト研究会（第5回全体会議） 主題：「本年度の研究成果の報告と来年度の計画について」 内容：(1)「大学における教授学習過程の映像を用いた改善の試み」について。 (2)下記報告以外に、各人の今年度の研究成果の報告があった。 研究報告： 「教授学習過程分析のための映像多重提示方式の開発」（藤田、三尾） 「自己研修の手段としてのメディア利用」（伊藤） | 藤田恵璽 福田 滋 小町真之 坂元 多 伊藤秀子 三尾忠男 浅田 匡 飯森彬彦 辰巳 格 野嶋栄一郎 星野昭彦 村川雅弘 |

（作成：三尾忠男）

○ Clark 博士を囲む拡大研究会

1991年6月27日に、ロンドン大学視聴覚センター所長 (Director, University of London Audio-Visual Centre, UK)、デイビッド・クラーク博士 (Dr. David Clark) を迎え、拡大研究会を行なった。クラーク博士は、研究報告45でも紹介したとおり、1990年に来所された際、前回のプロジェクト「教育番組のタクソノミーの開発および視聴学習行動の基礎研究」に興味をもたれ、2度目の訪問となった。今回は第1部で博士の講演と実演をお願いし、第2部でわれわれの研究の紹介と討論を行なった。概要はつぎのとおりである。

〈第1部〉 講演と実演

演題：The Design and Delivery of Interactive Instruction.

(インタラクティブ教材の設計と施行)

要旨：

There is a need to distinguish carefully between the tasks of designing and delivering interactive teaching. The lessons learned from the construction of television programmes for teaching have not been carried over into the new interactive field. My lecture will present an account of the development of interactive teaching programmes and show the factors which have inhibited its wide-spread use to date. We have developed a simple system for the delivery of interactive teaching and a separate system for the creation and analysis of these programmes. It is, at present, based on the Macintosh computer environment for ease and speed of development. Much work remains to be done to evaluate the system in a variety of learning situations, but we believe that the essential simplicity of the delivery system will encourage its widespread acceptance.

インタラクティブ教材の設計と施行に関する課題は慎重に区別する必要がある。教育テレビ番組の制作から得られた諸知見は、この新しいインタラクティブ教材の分野には、まだ取り入れられていない。この講演で、私は、インタラクティブ教授プログラムの開発についてのべ、今日までそれらが広範囲に普及するのを妨げている諸要因をあげる。われわれは、インタラクティブ教授のための簡単な提示システムと、こうしたプログラムを作成し分析するための別のシステムを開発した。それは、今のところ、開発が容易で速く行なえるマッキントッシュを基本システムとしている。このシステムをいろいろな学習状況で使用して評価していくことは、まだ十分行なわれていない。しかし、このシステムは、本来、簡潔なので、幅広く受け入れられると確信している。

略歴：

クラーク博士は、過去20年間、メディア技術開発の最先端の研究にたずさわってきた。主なものとして、コンピュータグラフィックスを用いた教材フィルムの制作 (科学、演劇、音楽など)、高等教育のためのインタラクティブ・ビデオディスクの開発 (医学、法律など)、衛星利用の会議システムの開発などがあげられる。

〈第2部〉 話題提供と討論

テーマ：Development of Audiovisual Teaching Materials and their Effects on Learning.
(映像教材の開発と学習効果)

話題提供：

Keiji Fujita: Introduction of the Project on “Structural Analysis of Audiovisual Instructional Materials and Assessment of their Effects.”

(「映像教材の構造と効果に関する理論的・実践的研究」プロジェクトの紹介)

プロジェクトの概要を紹介し、映像教材の構造と機能について研究する意義などについて問題提起した。

Tadao Mio: Development of Exploratory Video Analyzing System (EVAS).

(探索的ビデオ分析システムの開発)

探索的ビデオ分析システムの概要の紹介と、番組のショット分析、視聴行動のカテゴリー分析などの実演を行なった。

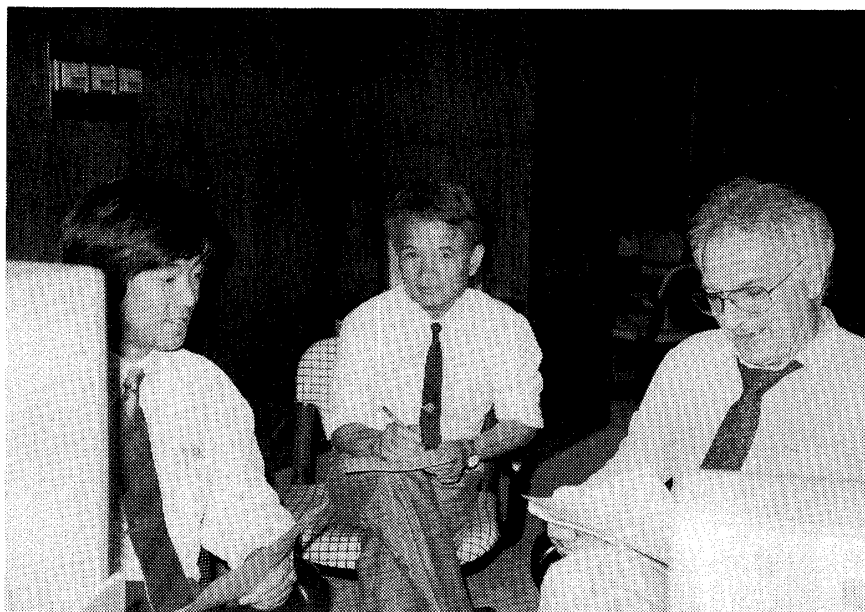
Hideko Itoh: Educational TV Program Analysis and Experimental Studies of Viewers' Behavior.

(教育テレビ番組の分析と視聴行動の実験的研究)

教育テレビ番組の構造と視聴行動の関連について、探索的ビデオ分析システムを用いて分析した事例を紹介した。また、視聴テストによる画像、文字、音声の提示効果測定の結果についても報告した。

クラーク博士は、われわれの研究が教材の構造と学習効果の分析から出発し、効果的な映像教材開発をめざしていることに強い興味を示された。探索的ビデオ分析システムについては、メディア技術開発の立場から細かな点にわたって質問された。

(伊藤秀子)



藤田教授、三尾助手と探索的ビデオ分析システムについて討議するクラーク博士